「令和6年度 全国学力・学習状況調査」

全国学力・学習状況調査に込められたメッセージとは？

文部科学省から提供されるデータは校内でどのように活用したらいいの？

対象学年担当以外や国語、算数･数学担当以外は関係ないの？

教科に関する調査では、「教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等に役立てる」という視点から、全国学力・学習状況調査は、「学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題」が出題されます。先生方が出題の意図を十分に理解した上で、児童生徒の実態から自身の指導を振り返り、児童生徒が、学習内容を確実に身に付けることができる指導を行っているか、検証しながら改善してほしいというメッセージが込められています。

また、質問調査では、生活習慣や学習環境に関する調査結果を活用することで、学校改善への手掛かりとなります。

全国学力・学習状況調査の分析や活用の仕方について詳しくまとめました！！

全国学力・学習状況調査の概要

千葉県の調査結果

県の「分析シート」の活用

学校における活用の充実

質問調査回答結果集計データ

役立つコンテンツの御紹介～県教育委員会HPから～

学習指導の改善と充実に向けたヒントとなる情報を多く掲載しています！！

「令和6年度 全国学力・学習状況調査活用の手引き」をダウンロードしましょう！

千葉県総合教育センターウェブサイトからダウンロードできます。

ＵＲＬ： https://www.ice.or.jp/nc/investigation/gakuryoku/r6

文部科学省から提供されるデータの内容の一部を紹介します。

文部科学省の提供データ

01 調査結果概況
02 問題別調査結果
03 問題別（解答類型）調査結果
04 回答結果集計（児童質問＜表＞）
05 回答結果集計（児童質問＜グラフ＞）
06 解答・回答状況（児童）_00
07 回答状況（学校質問）
08 全国学力・学習状況調査結果チャート（学校）
09 学校別解答状況整理表（S-P表）
10 学級別解答状況整理表（S-P表）_01
11 個人票_01

○校内研究に活用
実態把握・指導改善へ
○学校だより、学校ＨＰ、学年だより、保健だより、保護者会、ＰＴＡ家庭教育学級、ＳＮＳ等で広く活用 **情報発信**

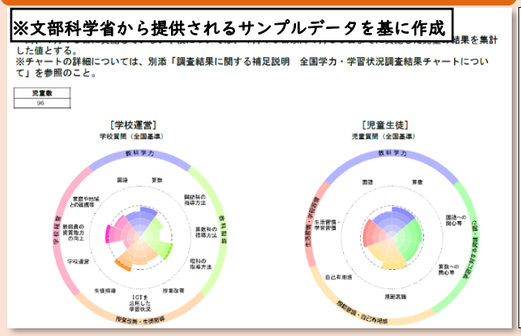
○学校改善の検討（評価指標への反映等）

○児童生徒**個人の達成状況を分析**し**個別最適な学びの実現**へ
○集団（学年または学級）における各設問正答率を全国と比較し**授業改善**へ

文部科学省から様々なデータが提供されます。全教職員にとって役立つデータなので、ぜひ、学校改善や授業改善に活用してください。

全国学力・学習状況調査結果チャート（学校）

※文部科学省から提供されるサンプルデータを基に作成



質問調査の各質問を領域に対応させレーダーチャート化

学校質問調査の回答結果

「教科学力」
「教科指導」
「授業改善・生徒指導」
「学校経営」

児童生徒質問調査の回答結果

「教科学力」
「学習に対する興味・関心」
「規範意識・自己有用感」
「生活習慣・学習習慣」

全国学力・学習状況調査結果チャート（学校）は、学校質問、児童生徒質問調査の結果がレーダーチャートで表示され、一目で、学校全体の学力や学習状況等を知ることができます。

学校別（学級別）解答状況整理表（S-P 表）

※文部科学省から提供されるサンプルデータを基に作成

学校別（学級別）解答状況整理表（S-P表）は、学校や学級全体の課題の傾向や、各児童生徒が理解していない可能性の高い設問を見つけ出すことができます。

この分析を通して、児童生徒の「個別最適な学び」や教師自身の授業改善に向けた手掛かりを見つけることができます。

【千葉県版】全国学力・学習状況調査の活用に係る動画コンテンツ

学校の先生や教育委員会の方など、県内教育関係者向けの動画です。
YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」で公開しています。

【動画コンテンツ一覧】
- 調査結果データの見方について(1)全般編
- 調査結果データの見方について(2)S-P 表編
- 県の分析シートを活用した結果分析について
- 令和６年度の調査概要と本県の結果について

千葉県総合教育センター学力調査部 ☎ 043-276-1238

「令和６年度　全国学力・学習状況調査活用の手引き」の内容の一部を紹介します。

Ⅰ　全国学力・学習状況調査の概要

全国学力・学習状況調査の目的

（１）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
（２）学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
（３）上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

児童生徒の実態を的確に把握し、結果を活用して「指導改善」「学校の経営改善」につなげ、児童生徒の学力向上を図っていくことが大切です。
今後、各調査について、CBT での実施が拡大していく予定です。

Ⅱ　令和６年度　千葉県の調査結果

令和６年度教科別調査結果

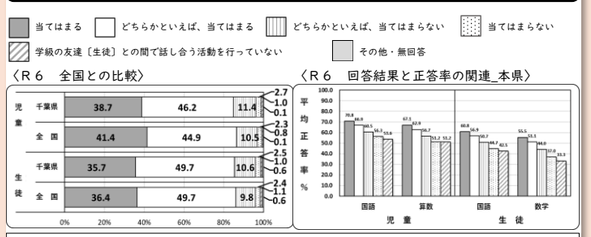
※平均正答数及び平均正答率の　上段（白）は、千葉県（千葉市を含む）、（　）内は、千葉県（千葉市を除く）、下段（網掛け）は、全国（公立）を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語〈全14問〉	9.4（9.4）	67（67）
	9.5	67.7
算数〈全16問〉	10.1（10.1）	63（63）
	10.1	63.4

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語〈全15問〉	8.5（8.5）	57（57）
	8.7	58.1
数学〈全16問〉	8.2（8.1）	51（51）
	8.4	52.5

結果の詳細（質問調査）

【児童生徒質問 33〔33〕】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか　【新規】



肯定的回答の割合が、児童、生徒ともに、全国に比べて低い。
（自校…　　）

結果の詳細（教科に関する調査）

～中学校国語より～

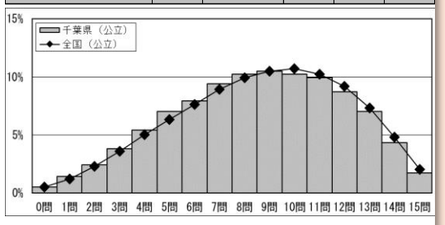
▼：全国の平均正答率を下回るもの

対象学校数	千葉県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	千葉県（公立）	全国（公立）
	370	9,268		44,065	875,574

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 千葉県（公立）	全国（公立）
全体			15	▼57	58.1
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	▼57.1	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	▼58.5	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	▼72.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	▼58.7	58.8
		B　書くこと	2	▼63.4	65.3
		C　読むこと	4	▼47.3	47.9
評価の観点		知識・技能	6	▼60.2	62.0
		思考・判断・表現	9	▼54.7	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	▼59.8	61.0
		短答式	3	▼60.9	61.8
		記述式	3	▼44.2	45.5

イ　正答数の分布

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県（公立）	44,065	8.5 / 15	57	9.0	3.4
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4



横軸：正答数
縦軸：生徒の割合

ウ　指数

中学校・国語		
	全体	98.1
内容・領域	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	96.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	98.2
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	96.3
	A　話すこと・聞くこと	99.8
	B　書くこと	97.1
	C　読むこと	98.7
観点	知識・技能	97.1
	思考・判断・表現	98.7
	主体的に学習に取り組む態度	
問題形式	選択式	98.0
	短答式	98.5
	記述式	97.1

※右の表は、全国を 100 としたときの指数で表している。

課題のある設問

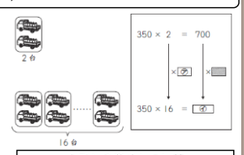
～小学校算数より～

2(1)　（趣旨）計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

（学習指導要領）〔第３学年〕A 数と計算 ⑶ イ(ア)

350×2=700　であることをもとに、350×16 の積の求め方についてまとめました。
このとき、350×16 のかける数「16」が、350×2 のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。

㋐に着目すると、350×16 の積㋑は、どのように求めることができますか。
㋐に入る数に着目したときの㋑の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、㋐に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。
また、㋑に入る数も書きましょう。



（正答例）
【求め方】16÷２＝８で、かける数の 16 は、かける数の２の８倍です。
350×16 の積は、350×２の積の８倍だから、700×８＝5600 です。
【㋑】5600

全国と千葉県との比較

正答率（%）		無解答率（%）	
全　国	56.9	全　国	3.4
千葉県	54.2	千葉県	3.9
自　校		自　校	

解答類型別反応率（誤答のうち反応率が高いもの）

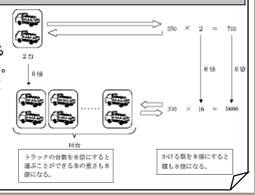
＜正答の条件＞次の①、②の全てを書き、㋑を 5600 と書いている。
①16 が２の８倍であることを表している式や言葉
②700 の８倍になることを用いて、350×16 の積㋑を求める式や言葉

	解　答　類　型	反応率（%）
2	【求め方】①を書いているが、②を書いていないもの　【㋑】5600 350×16 の積が 350×２＝700 の８倍になることを用いて、350×16 の積㋑を求める式や言葉は記述できていない。	全　国　9.5 千葉県　9.5 自　校（　）
4	【求め方】350×16 を書いているもの　【㋑】5600 350×16 の乗数「16」が、350×２の乗数「2」の８倍であることに着目することができず、350×16 の計算をしている。	全　国　3.8 千葉県　3.5 自　校（　）

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにするには

本設問を用いた指導の工夫

トラック２台で運ぶことができる米の重さが700kg であることを基に、トラック16台で運ぶことができる米の重さの求め方を考え、説明する活動が考えられる。その際、右の図のように、かける数を８倍にすると積も８倍になるという計算に関して成り立つ性質を活用していることを、図や式を用いて場面と関連付けて理解できるようにすることが大切である。さらに、答えの求め方について、筋道を立てて説明できるようにすることも大切である。



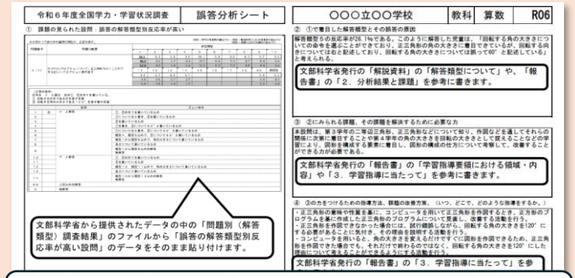
Ⅲ　県の「分析シート」の活用

文部科学省による調査結果データ

↓

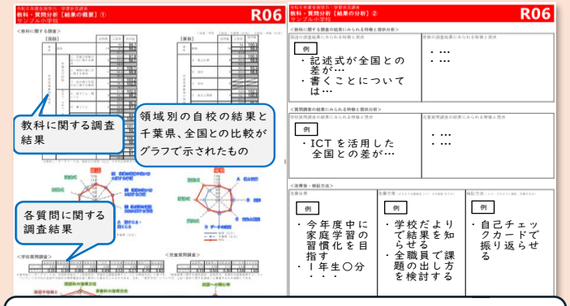
県が提供する分析ツール

誤答分析シート



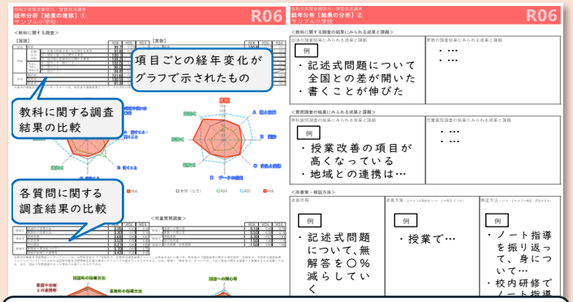
課題がみられた項目や設問について、解答類型ごとの反応率をもとに分析することができます。

教科・質問分析シート



レーダーチャートの多角形の形状に着目して成果と課題を確認し、分析することができます。

経年分析シート



経年での指導改善の取組の成果と課題を確認し、分析することができます。

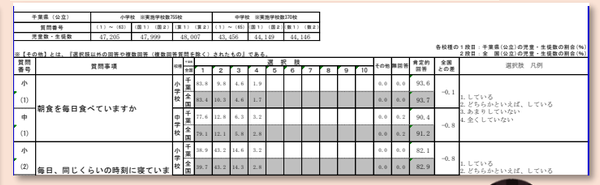
Ⅳ　学校における活用の充実

自校の調査結果は、多くの活用方法が考えられますが、最も有効なのは「教員の指導改善を検討する校内研修」の場面です。県内のいくつかの学校からお話を伺った中から、ほとんどの学校が共通して取り組むことができるものをいくつか御紹介します。
なお、校内研修の他にも、自校の調査結果は、各種広報紙や HP・SNS により保護者や地域に情報発信したり、学校評価の指標の参考にしたりすることもできますので、ぜひ活用ください。

A「調査問題の意図を知る」（４月～）

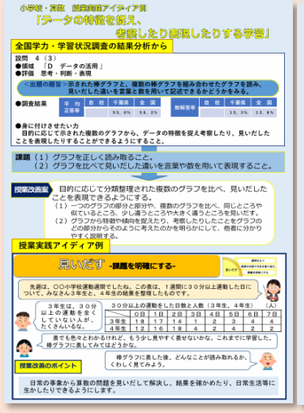
（目的）教科に関する問題を解き、職員が出題の意図を知る。
（流れ）⓪国語又は算数（数学）の問題を全員が解いておく。
①「国語グループ」「算数（数学）グループ」に分かれて、児童生徒の誤答を予想し、指導上の留意点等について協議する（特に、中学校では、当該教科以外の方も参加することが大切です）。
②各グループの協議結果を全体で共有する。

Ⅴ　質問調査回答結果集計データ



校内研修の具体例や授業改善に役立つコンテンツ等、全ての先生方にとって役立つ情報が多く掲載されています。

Ⅵ　役立つコンテンツの御紹介 ～県教育委員会 HP から～



☆　トピック　市町村教育委員会等の取組について

八街市教育委員会の取組

八街市教育委員会では、市内全小学生対象の基礎学力調査（国語、算数）のうち、今年度、算数について、MEXCBT を活用して CBT 方式で実施しました。

【調査全体概要】

現状と背景

○平成21年から「八街市小学校基礎学力調査」（教科：国語・算数　対象：１～６年生）を実施。
○GIGAスクール構想により児童生徒に対して１人１台端末の環境が整備され、学校や家庭における文部科学省のCBTシステム（MEXCBT:メクビット）の活用が推進されている。

「MEXCBTを活用した地方自治体の学力調査等（文科省事業）」を活用

調査実施日の様子

今後に向けて

○意欲的に問題解決に取り組んでいた。
○今後、端末を活用した学習の充実が期待できる。
●全角・半角、大文字・小文字など、正答の類型（パターン）を定める作業に課題がある。
●CBTのメリットを生かすより、問題作成や出題方法などについて十分な検討が必要である。

八街市教育委員会への取材をもとに当センターが作成